

1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1271900258
法人名	有限会社セブンワーカーズ
事業所名	グループホーム 天鼓
所在地	〒289-3100 千葉県匝瑳市飯倉台10-15 (電話) 0479-73-5181

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年7月11日	評価確定日	8月25日

【情報提供票より】(20年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	14人, 非常勤 7人, 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他	食費42,000円, 水道光熱費15,000円, オムツ, 理美容, 医療費, イベント費実費徴収	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有り(期間:3年間)	
食材料費	朝食	300円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	14名
要介護1	4名	要介護2	3名	
要介護3	6名	要介護4	3名	
要介護5	1名	要支援2	0名	
年齢	平均 78歳	最低	75歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	匝瑳市民病院 山崎医院 守医院 匝瑳市歯科医師会
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR総武本線飯倉駅から徒歩5分。緑あふれる住宅地にあり、採光もよく広々とした清潔なホームである。印象的なのは入居者と職員の生き生きとした表情である。このホームでは菜園を持ち、農家出身の入居者が積極的に参加している。また今までの暮らしを振り返り、自分の力を見直す回想法の勉強会を実施し、入居者・職員が継続して参加している。職員の研修体制も充実しており、月1度の夕方研修では、勤務扱いとして手当や夕食も配慮され、ほとんどの職員が参加している。課題として、入居者の重度化が進み、これについて看取りをどうするか、家族との合意やケアの体制をどうするか検討中である。生き生きとした表情を支える体制を引っ張る施設長の熱意が伝わってくるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重要事項説明書・介護計画書への入居者・家族の署名・押印漏れについては、改善され漏れはない。運営基準上必要な介護支援専門員の資格を、管理者が取得し改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目について、事前に全職員参加で読み合わせし、意見を出し合い管理者がまとめ作成した。その報告書を全員に説明確認した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	3ヶ月に1度開催している。家族・近隣住民・民生委員・行政職員がメンバーとなっている。家族の参加が多い。活動報告・行事予定等が報告され、参加者との意見交換がされている。最近では、入居者の重度化・看取りについてが議題となり、今後も継続して検討することになっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に参加する家族も増えてきて、直接要望・意見を聞いている。面会に来る家族も多く、意見を反映させている。毎月、天鼓便り「一緒にくらす」を送付している。一緒に、入居者の様子を個人別に書いたものや、体重や体温などの1ヶ月間のバイタルチェック表も同封し家族の不安を無くすしくみを作っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣の人が運営推進会議のメンバーであり、毎回参加している。隣接の人が入居者と会話したり、近所の美容師が入居者のカットに来たりしている。ホームの西隣が公園になっていて散歩コースにしており、子供連れの母親と交流したりしている。地元の幼稚園・小学校・中学校の生徒の見学や実習も受け入れている。町内のお祭りや、ゴミゼロ運動にも参加し、地域の一員として活動している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームに入居してもこれまでの暮らしを継続する、家族や地域との繋がりを失わない、介護の主体は入居者である、礼節と尊厳の心を持って接するなどをモットーとしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング時に唱和し、また研修時に確認することで、全職員が理念を共有し、日々の介護に生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーが皆、近隣住民である。地域の幼稚園、小学校、中学校の生徒の見学や、実習の受け入れもしている。町内のお祭りや、ゴミゼロ運動への参加など、地域の一員として活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が評価項目について読み合わせをしたうえで作成した。職員は皆、自己評価、外部評価の意義を理解し、ケアの向上に役立てている。また職員一人一人が毎月の目標を設定・公表し(例 大きな声で挨拶する)、職員相互でその達成状況を確認している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度開催している。家族の参加も増え、夜勤の人員数についての意見などが出された。また最近の会議では、入居者の重度化・見取りの問題が議題とされ、今後も継続して検討することになった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市職員が必ず出席している。ホームの空室情報も定期的に提供するなどして、日常的に十分な話し合いが出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便り「一緒に暮らす」を送付し、同時に入居者個々の暮らしぶりを手紙にしたり、健診結果や1ヶ月のバイタルチェック表を送付している。家族の面会時にも、職員が入居者の近況を話している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の家族への参加が増え、活発な意見交換がされている。6月の会議には、7人の家族が参加し、夜勤の人員について2名にならないかとの意見が出た。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニットごとに職員を固定して勤務している。職員全体で入居者をケアする体制なので、離職などがあっても、影響は少ない。職員の離職は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、夕方からの研修にはほとんどの職員が参加している。勤務として位置づけ、手当や夕食も用意され、参加しやすい体制である。その他年に数回、外部から講師を呼び講演会を開催している。7月には、ホーム主催の回想法、傾聴インストラクター養成講座が、地域住民への参加も呼びかけて開催される予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会第4ブロックに属し、年3,4回集まって意見交換している。天鼓が世話人となって外部講師を招く研修には、毎回10人から30人の参加がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居申込者はまず隣接しているデイホーム天鼓を体験利用し、グループホームへさりげなく移れるように配慮している。また、行事への参加をよびかけて、ホームに馴染むようにしている。新規入居者には、10日から2週間ぐらい夕方6時から22時ごろまで職員がつく体制で取り組んでいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除や調理・洗濯たたみなど、職員は入居者と一緒に行っている。また漬物のつけ方などを入居者から教わっている。入居者と共に今までの暮らしを思い出し、持てる力を再認識する、回想法を取り入れ、今まで話さなかった入居者が、話すようになるなどの成果が出ている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者や家族の昔話、回想法を通し生活歴、生活環境を把握、個人記録に記入して、職員全員が情報共有している。今日は何をしたいか尋ねたり、入居者の立場に立って考え、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作成するに当たり、職員、入居者、家族を交えてケースカンファレンス(対象者に関する情報を共有し、介護目標を立て、共同して実行するための会議)を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態変化の都度、介護計画をたて対応している。これらは日々の個別記録に残して、職員全員で情報の共有をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊、葬儀、法事、墓参り等送迎支援、隣接の同法人デイサービスを利用したり、入居者の家族が宿泊出来る設備を設けたりして、事業所の多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や、認知症に詳しい医師によるそれぞれ月2回の往診や、必要に応じた検査や治療が受けられ、電話相談にも応じてもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	個々のターミナルケア(看取り介護、終末期ケア)については、家族と方向性を話し合っている段階で、終末期の指針設定は検討している最中である。看取り実績はまだ無く、ターミナルケアに関する研修実施、家族の同意を得るのもこれからである。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、個人情報保護法を理解し、プライバシー保護に関する業務マニュアルもある。秘密保持同意書も家族等と取り交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、日々の入居者の希望を把握して、ホームの業務スケジュールよりも、その希望を優先している。なお個々の暮らしの中で特別な制限は無い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食べたい物の希望を取り、入居者と共同で献立を作成している。巻き寿司等店屋物を取ったり、食事をする場所及びメニュー選択も出来る。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者個々に入浴担当があり、入居者の意向にあわせ、入浴方法は担当に任されている。基本的には毎日入浴が楽しめる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望により、掃除、ゴミだし、新聞取り、畑仕事、買い物等楽しみながら生活の役割を分担している。癒しの為の犬猫等を飼う事は出来ないが、自宅で飼っていた犬猫を、家族が連れてくることは出来る。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩が日課、2～3人のグループで行っている。近隣の住民も声掛けや、見守りをしてくれており、変事があると連絡をくれる等、外出支援に向けて協力してくれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼夜間共に鍵掛けはしていない。入居者の所在に気を配っており、入居者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握しているが、将来的には玄関、裏口等にモニターTVを配置するべきが考慮中である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同ホームは施設長の肝入りで新築したものであり、耐震・火災にも万全を期していると自負している。日頃から避難方法は職員同士で確認しあい、地元の消防とも話し合っている。今後は夜間の災害を想定した訓練をする予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分確保については、入居者個々の記録表が有り、小まめに記入している。食材は当日購入分だけを使用、残り物の再使用はしない。感染症予防マニュアルを作成し職員が共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関近くに花壇をつくり、その脇に10人程度がくつろげる木製テーブルと椅子があり、明るく入りやすい工夫がなされている。室内の共用空間たる居間も広々として、洋間の中に一段高く、畳敷きの居場所も設けられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込み制限は無く、使い慣れたテレビ、時計、タンス、仏壇位牌等が置かれ、家族やペットの写真が飾られていて、自分の居場所になっている。各居室にはクローゼット、空調設備が据えられている。掃除は職員と入居者が共同して作業している。		